

保護者用



平成30年度 文部科学省
「特別支援教育に関する実践研究充実事業」

平成30年度 学校研究 成果報告書



はじめに

今年度、本校は文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託し、新学習指導要領施行に向けた実践研究「社会との接続を意識し、子供たちが、社会的・職業的自立に向けた主体的・対話的で深い学びの実現」という研究課題に取り組みました。

この研究は3年間の計画で取り組む予定で、今年は、その1年目となります。

■ 本研究に取り組むための目的は、次の2点となります。

- 地域・人との関わりを通して、児童生徒が学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを経験できる授業づくりを検討する。
- 交流学习、地域学校協働学習を推進する。

つまり、児童生徒が地域や人との関わりを積極的に行い、その関わりを通して自らが「学び」に興味関心を抱き、「学んだこと」を様々なことに関連付けて広めていく力を育成する取り組みです。

今年の学校テーマは

昨年度まで行ってきたキャリア教育研究では「子どもたちが経験を通して、自分や自分に関係性のある全ての事象に対する知識や認識を、より現実に即して新たにしていくこと。そして、その営みを繰り返しながら自分らしい生き方を実現していくこと」という成果を得ました。この成果をもとに「子どもたちは、様々な地域・人との関わりから、そして、様々な役割から色々なことを学んだり、また、その学んだことを伝え合ったりしながら成長していくと考え、「地域・人」「関わり」「学ぶこと」「伝え合うこと」の4つのキーワードを大切にしたい授業づくりを学校研究のテーマとしました。以下は、今年度の学校研究テーマです。

学校研究
テーマ

地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、
伝え合う喜びを育む授業づくり

大切にしたい「つきたい力」

今年度は、子どもたちが成長していく中で「何ができるようになるのか」という子ども主体の「つきたい力」を各学部で決めました。この目標をもとに子どもたちが地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさを感じ、それを伝え合うことで喜びを感じる授業づくりを行いました。以下は各学部でのつきたい力です。

小学部

共に学び、
自分を表現する力

自己

中学部

他者との関わりを
通して、互いに
認め合える力

他者

高等部

地域・人との
関わりを通して、
社会に参加する力

社会

子どもの育ちを丁寧に見取る授業実践

小学部の実践 「自分を表現する力」の育成

小学部では集団活動の中で様々な関わりを通して多様な経験を積み重ねながら興味・関心のある活動、子どもたちから発する要求や気持ちを大切に授業づくりを行ってきました。

今年度は、1組では「選んで〇〇をしよう」、2組では「スイミーランドであそぼう」、3組では「みんなで〇〇を楽しもう!」と集団活動の中での関わりを中心とした授業を行ってきました。その中でも、2組の「スイミーランドであそぼう」は、有名な絵本『スイミー』の世界観を教室に持ち込み、その中でクラスみんなが一緒に「遊ぶこと」を楽しみ、楽しかった気持ちを身近な存在である保護者の方々へ自分なりの表現方法で伝えることを目標として授業を行ってきました。その結果、児童自ら友だちと遊ぼうとしたり、保護者や教師と関わろうとしたりする姿が見られるようになりました。



▲1組「選んで〇〇しよう」



▲2組「スイミーランドであそぼう」



▲3組「卒業生を祝う会」

中学部の実践 「互いに認め合える力」の育成

中学部では「互いに認め合える力」の育成を目指し、愛育保育園、附属幼稚園などと様々な交流学習を行ってきました。愛育保育園では、昔の遊びを中学部の生徒達が様々な形にアレンジを行い、園児と一緒に遊ぶことを通して互いを知る活動を行いました。また、附属幼稚園では、「火災」をテーマとした防災学習を一緒に行いました。火災の危険性についての学習や煙対策の学習など本校生徒が幼稚園児に分かりやすく「伝える」ために、実演などを取り入れた「体験ブース」を準備し、ともに学習を行ってきました。その結果、生徒は、様々な人との関わりを通して、人に伝える喜びを感じたり、自分自身が園児たちから頼りにされ、認められることで自己有用感を持つことができるようになったりしました。



▲保育園との交流学習



幼稚園との交流学習▶

高等部の実践 「社会に参加する力」の育成

高等部では「社会に参加する力」の育成を目指し、地域の方々との協働学習を中心に行ってきました。この協働学習とは「学習者が相互に協力しながら、共通の目標や課題の達成を目指す学習」のことを言います。今年度、高等部は地域の方々と「地域防災について学ぶ」ことを目標と定め、この学習を通して社会に参加する力について考え、授業を行ってきました。具体的な取組としては、味噌蔵地区の民生委員の方々や地域バザーの準備や富山県防災センター四季防災館での体験学習、災害時調理学習などの学習を一緒に行ってきました。その結果、地域の方々との関わりを通して防災について学び、共に考える中で、社会に参加する力が生徒に徐々に備わってきました。



▲富山県防災センター四季防災館での体験学習



味噌蔵地区の方々との
災害時調理学習▶

平成30年度 教育研究会について

平成31年2月8日に開催した教育研究会には、全国から103名の方が参加しました。参加者のアンケート結果からは回答者57名の全ての方から研究成果について「大変良い」、「良い」という評価をいただきました。加えて、今後に向けた貴重なご意見、ご助言も多数いただき大変充実した研究会となりました。また、保護者の皆様にもご協力いただき大変感謝しております。次年度もこの成果に満足せずさらなる充実・改善をしていきたいと思ます。以下は、当日の様子をお伝えします。



▲受付の様子



▲全体会

小学部



▲指定参観授業

中学部



▲指定参観授業

高等部



▲指定参観授業



▲ポスター発表



▲外部資金研究 ポスター発表



▲講演会

おわりに

文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託して、新学習指導要領施行に向けた学校研究を行ってきました。この学校研究は、子どもの視点に立って「何ができるようになるのか」について考え、その力を付けるためには「何を学ぶのか」、「どのように学ぶか」ということを教師が考え、日々の授業を行っていくものです。

今年度は、この「何ができるようになるのか」について各学部で「つきたい力」として取り組みました。また、今年は初年度であり、まだまだ課題はありますが、過去に行ってきたキャリア教育研究で得た成果をもとに子どもたちの「つきたい力」を育む授業づくりの研究を今後も進めて参ります。

保護者の皆様におかれましては、これからも本校の研究活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

大学の附属学校である本校は、教育実践研究を行い、その成果を広く発信していくことが求められています。保護者の皆様には、この学校研究成果報告書をご一読いただき、本校の教育実践や研究活動に一層のご理解を賜り、ご協力をお願い申し上げます。

平成30年度学校研究成果報告書(保護者用)

発行 平成31年3月14日
発行者 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校
校長 山本 仁
〒920-0933 石川県金沢市東兼六町2番10号
TEL (076) 263-5551 FAX (076) 264-2275
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futoku/>
印刷所 ソノダ印刷株式会社